

# 平成 30 年度 川場村のあゆみ

## 梶山地方創生担当大臣が来村！ ～地方創生の取組について視察～

6月9日（土）、梶山地方創生担当大臣が道の駅川場田園プラザ及びウッドビレジ川場の視察を行いました。田園プラザでは永井社長から施設運営の説明が、また、外山村長からこれまでの村づくり



や今後の構想についての説明が行われました。その後、ファーマーズマーケットやビール工房等場内施設を御覧いただきました。また、ウッドビレジではバイオマス発電設備と廃熱利用農業ハウスを案内し、更なる森林資源の活用の可能性や、農産物のブランド化の現状を御覧いただきました。



昼食には、名主の館で川場産こしひかり「雪ほたか」や最高級紅鰯ギンヒカリを使った川場の郷土料理を御試食いただきました。本村の地方創生の取組について現状と今後の計画を知っていただく、よい機会となったと思います。

## スローフード運動発祥の地イタリア「ブラ市」を訪問！

11月10日（土）から16日（金）にかけてスローフード運動やチーズ製造、農家民宿などの視察調査を行うため外山村長はブラ市などを訪問いたしました。

ブラ市はイタリア北部の中心都市トリノ市から南へ50kmほどにある人口約3万人、面積60km<sup>2</sup>の小さな街です。市の歴史は古くローマ時代から栄え、古くからの建造物が現役で使われ周辺は農業地帯があり、トリノのベッドタウンとしても知られています。

現在ではスローフード発祥の地としても有名で世界中から訪れる観光客で賑わっています。

スローフード運動は、伝統的な食文化を大切に守ろうという動きで地域や農家などと連携し経済活動を生み出す一助となっています。14日には、ブラ市役所でブラ市長や

市議会議員とも懇談しブラ市とのMOU（了解覚書）などによる交流などが話題として語られました。また、その様子が地元新聞4紙にも取り上げられ関心の高さが伺われました。

今後ブラ市との情報交換や交流を通じて連携が拡大し国際交流へと発展することが期待されています。



## 川場村子ども議会開催

10月16日（火）、川場村議会議場において3回目となる川場村子ども議会が開催され、中学3年生31名の議員が出席しました。



この子ども議会は、議会の仕組みや運営方法を実際に体験し理解を深めるとともに、今後の川場村を担う中学生ならではの視点・発想に基づいた、村づくりのための要望や意見をこれからの村政運営に取り入れようとの思いで開催しました。今後も毎年、中学生を対象とした子ども議会を開催していく予定です。

生徒は事前に役場職員に話を聞き、グループ討議を重ねるなど事前学習に取り組み、子ども議会に臨みました。代表議員12名からはさまざまな一般質問がありました。

## 全国の舞台で銀賞に輝く

### ～川場小マーチングバンド～

11月17日（土）、大阪城ホールにおいて、「第37回全日本小学校バンドフェスティバル」が開催されました。8年連続でこの大会に出場した川場小学校マーチングバンド「川場キッズ」は、今年こそ再び金賞を目標に7分間の演奏に100%の力を出し切りました。

「私たちの宝物」をテーマに故郷・川場村への思いや、応援してくださる村の人たちへ感謝の気持ちを込めて演奏しました。演奏が終わったときには「やりきった！」とうれし涙を流す児童がたくさんいました。

結果は銀賞でしたが、会場の人たちの心を動かす演奏・演技ができたと思います。これからも感謝の気持ちを忘れずに、心に響く演奏を届けてください。



## 雪ほたか躍進！

### ～第 20 回米・食味分析鑑定コンクール国際大会～

11月26日（月）、27日（火）に岐阜県高山市において、国内最大の大会「第20回米食味分析鑑定コンクール国際大会 in 飛騨」が開催され、出品総

数5,717検体（過去最多）の中から小林仁志さん（立岩）が国際総合部門で最高賞の金賞を受賞しました。雪ほたかの国際総合部門での金賞受賞は昨年引き続き11回目となり、地域、団体としては最多の快挙となりました。

また、星野孝之さん（川場湯原）が国際総合部門で特別優秀賞、林登志也さん（谷地）が水田環境特A部門で金賞、川場小学校が小学校部門で特別優秀賞を受賞しました。



### ～コンクールの舞台裏でサプライズな出来事が～

コンクールの開催地である岐阜県高山市の高山幼稚園において、10月2日開催された運動会で、恒例行事となっているメッセージ付きの風船が放たれました。風船は風にのり、約180km離れた川場村、久保田長武さんのコンニャク畑にたどり着きました。風船を発見した久保田さんがメッセージを開封すると「すてきなことがこれからあるといいですね」と添えられていました。風船を飛ばした園児は年長の寺元瀬菜ちゃん。久保田さんは「コンクールの開催地から飛んでくるなんて幸運の兆し」と喜び、すぐに返事を書き来園を約束しました。コンクール2日目の27日、村長、雪ほたかの小林政幸社長、久保田さんが高山幼稚園を訪問し、かわたんクッキー、雪ほたかのお米、かわたんクリアファイルをプレゼントすると、園児は「さるぼぼのお人形」と合唱で迎えてくれました。久保田さんと寺元瀬菜ちゃんは不思議な出会いを祝い握手。心温まるサプライズな出来事でした。



### ～第15回お米日本一コンテスト in しずおか～

12月7日（金）、8日（土）に静岡県静岡市において、「第15回お米日本一コンテスト in しずおか」が開催されました。全国より580点が出品され雪ほたか：星野孝之さん、高井秀明さん、和田祐次さん、佐藤充さんが金賞に入賞しました。群馬県勢で金賞を受賞したのは川場村のみで、金賞受賞の30点のうち雪ほたかの4点受賞は団体としては最多となり。川場村の産地の力が全国に評価されました。



## ～田植祭・抜穂祭～

道の駅川場田園プラザの献穀田において5月29日(火)に「田植祭」、10月5日(金)に「抜穂祭」が行われました。川場産コシヒカリの豊作を願い、昭和16年に行われた献穀祭を川場村小学校5年生が再現し行われています。



田植祭では女子は緋の着物に鳥追笠の「早乙女」、男子は白装束に烏帽子の「早男」に扮し、るりこ星による「田植式歌」のコーラスに合わせ、古式ゆかしく豊作を願い田植えを行いました。



抜穂祭では女子は緋の着物に鳥追笠の「刈女」、男子は白装束に烏帽子の衣装で、るりこ星による「刈取式歌」のコーラスに合わせ、稲刈りを行いました。

初めは慣れない手つきの児童達でしたが、(株)雪ほたかの皆さんに指導を受け、上達していきました。会場では、多くのカメラマンや見物客で大変にぎわいました。

## ～冬×ふじやまプロジェクト～

2月11日、富士山集落の棚田に7,000本の灯が灯りました。一つずつ手作りした竹燈籠に、これまた一つずつ人の手で火を入れて完成される一年でたった一夜のイベント。



夕方のまだ明るい内から火入れするので最初はなかなか火が付いているのか見えづらい風景だったのが、夜が更けると一転、見渡す限りの色とりどりの竹燈籠が煌めき、空を見上げれば星々が。天と地が瞬く幻想的な光景が広がっていました。村内外から沢山のお客さんが観に来てくれて、どの方も「写真で見ると全然違う」「去年より更にすごい」「来て良かった」と喜んでくれました。古民家でのおもてなしで温まったり、お子さん達がワークショップで楽しそうにランタンを作ったり、皆さん楽しんでいただけたようで何よりでした。

今流行りの広大な土地を利用したLEDイルミネーションとはまたひと味違う、火の温もりを活かし、人と里山を繋ぐ富士山の竹燈籠。もっと皆さんに知って貰いたいです。今年観に来てくれた方も、観に来られなかった方も、来年をお楽しみに。

